

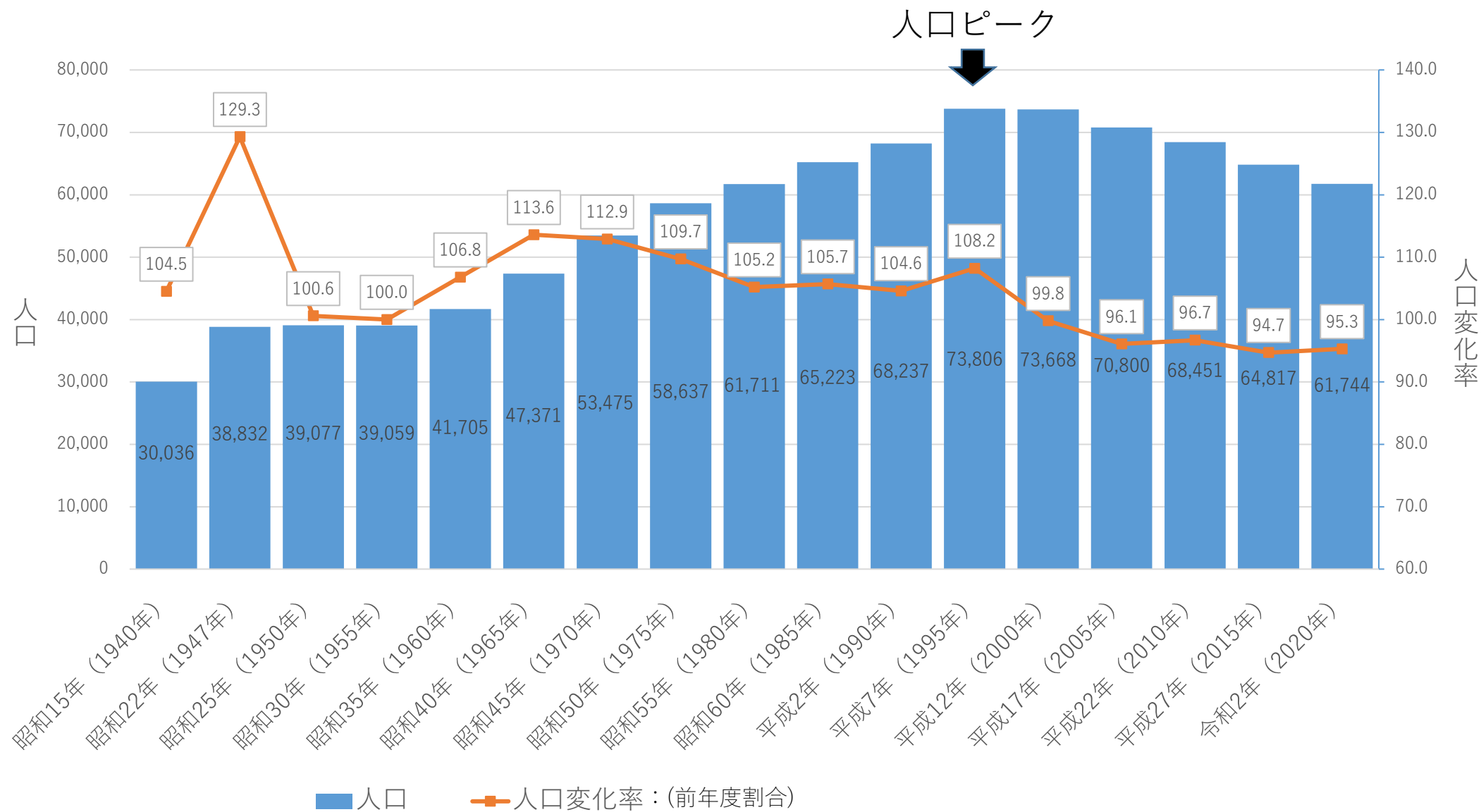
大和高田市の 人口動態について

令和 6 年 8 月

令和6年度 第1回 大和高田市まち・ひと・しごと創生会議
令和6年 8月21日（水）14：00～

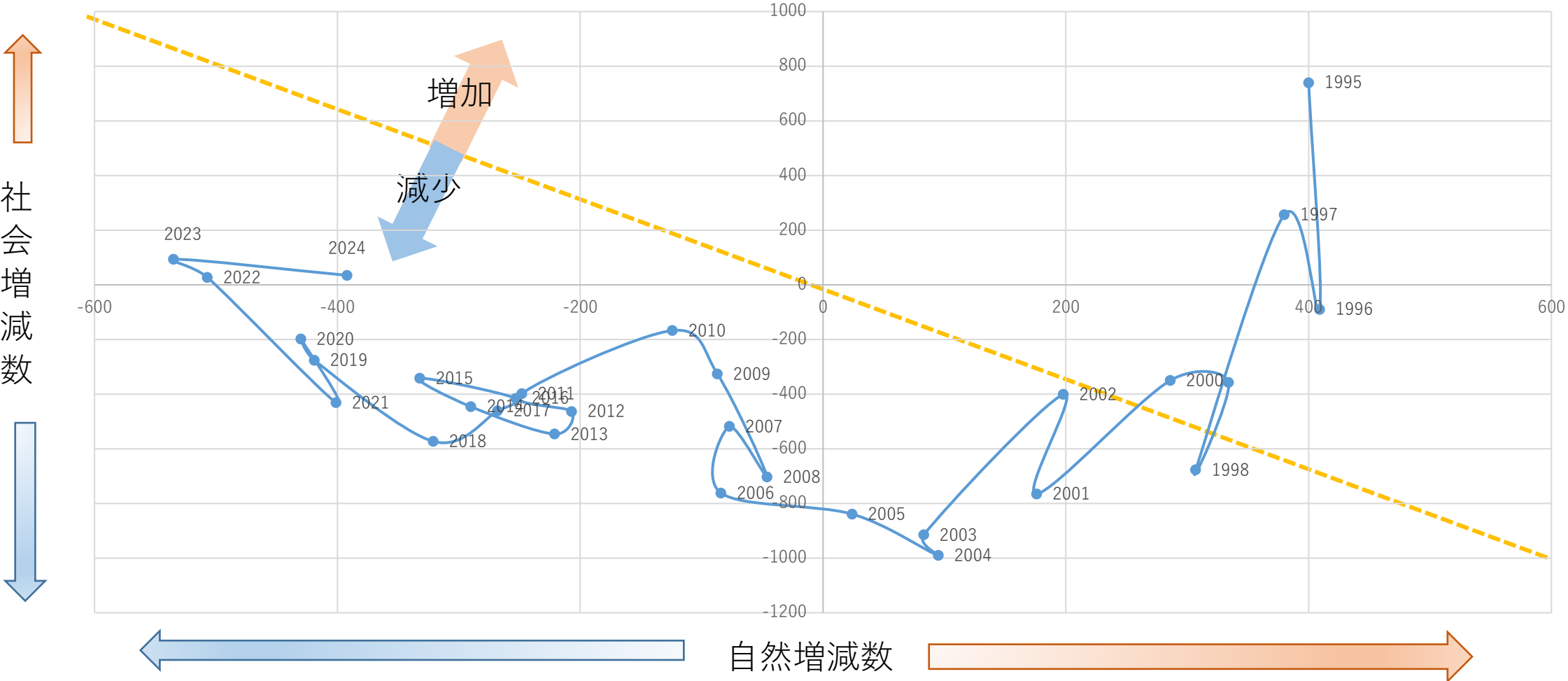
人口と人口変化率の推移

【出典】 国勢調査



※ 各年1月1日時点

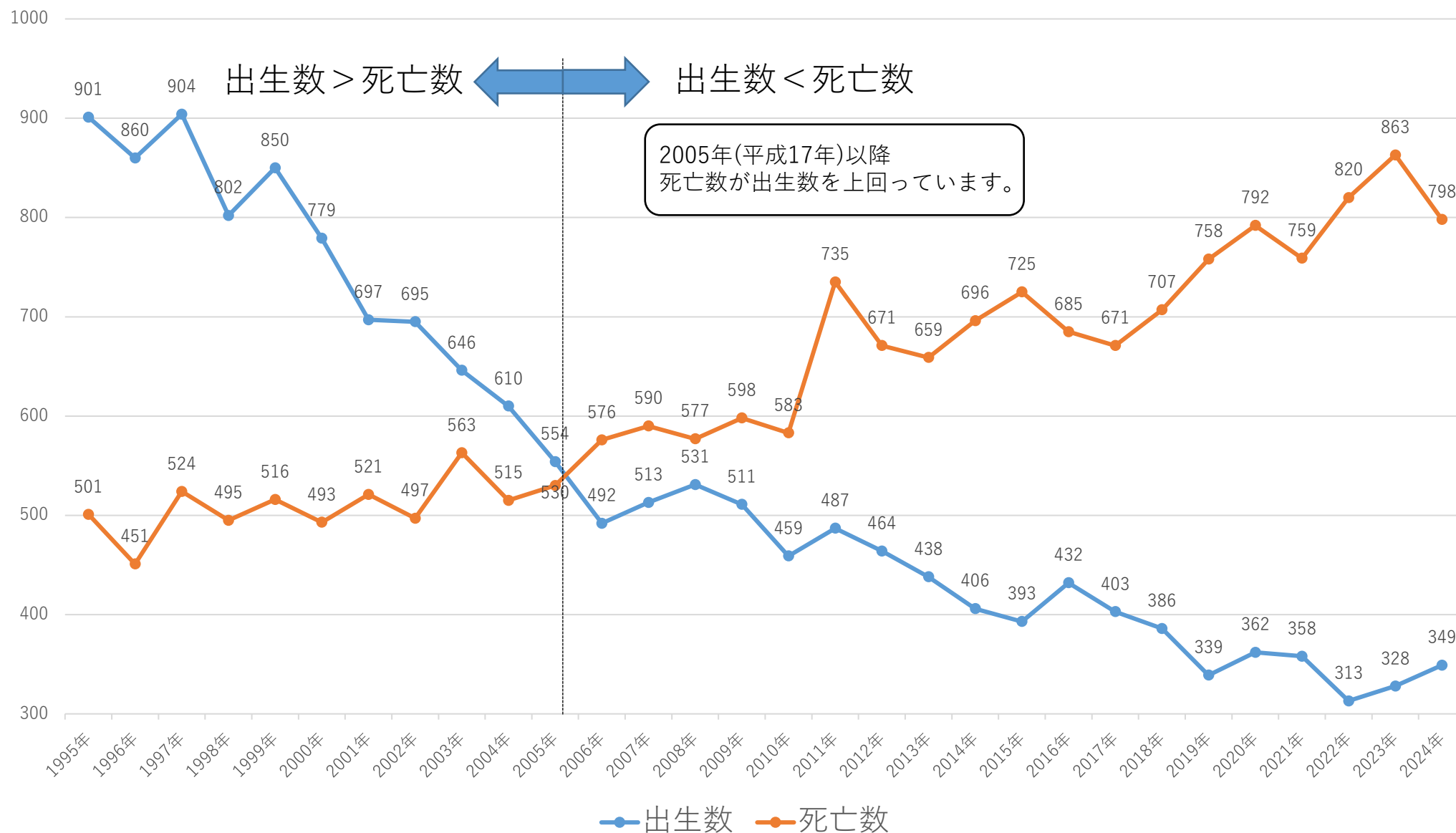
自然増減と社会増減の推移（散布図）



出生数・死亡数

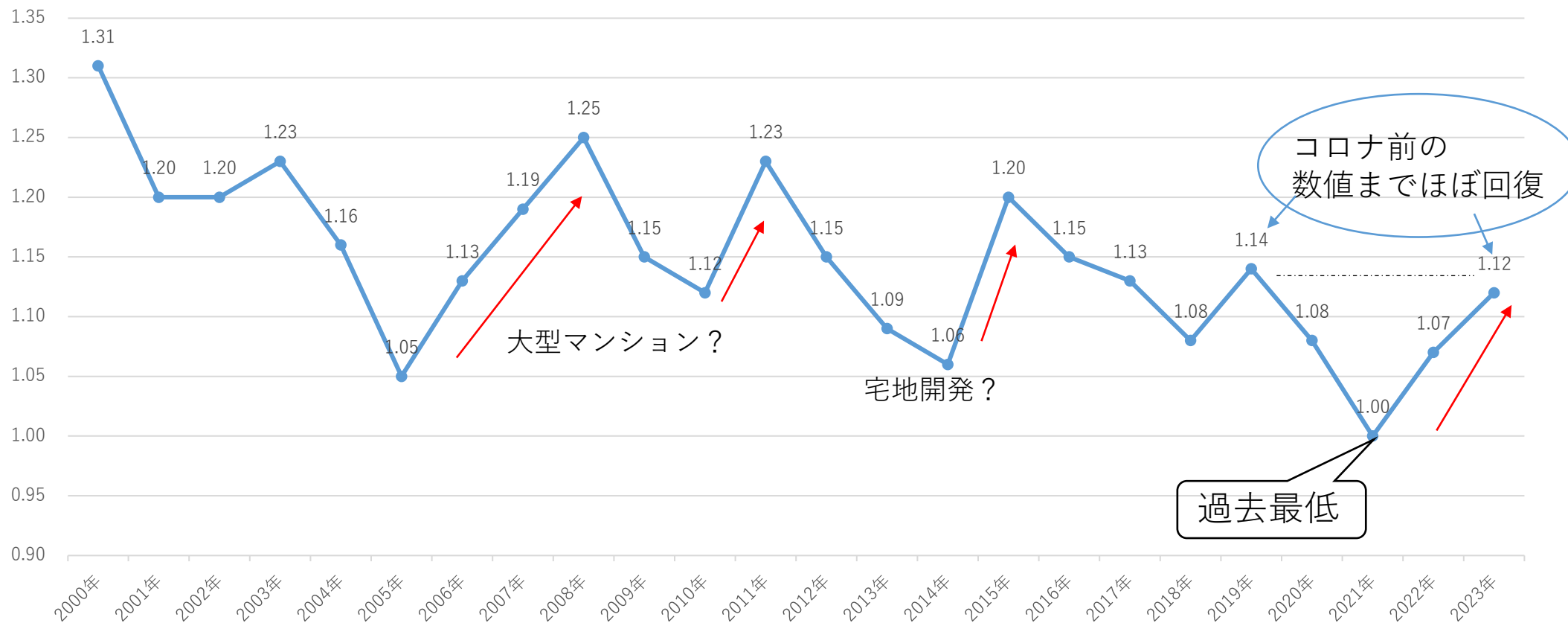
【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

※ 各年1月1日時点



合計特殊出生率

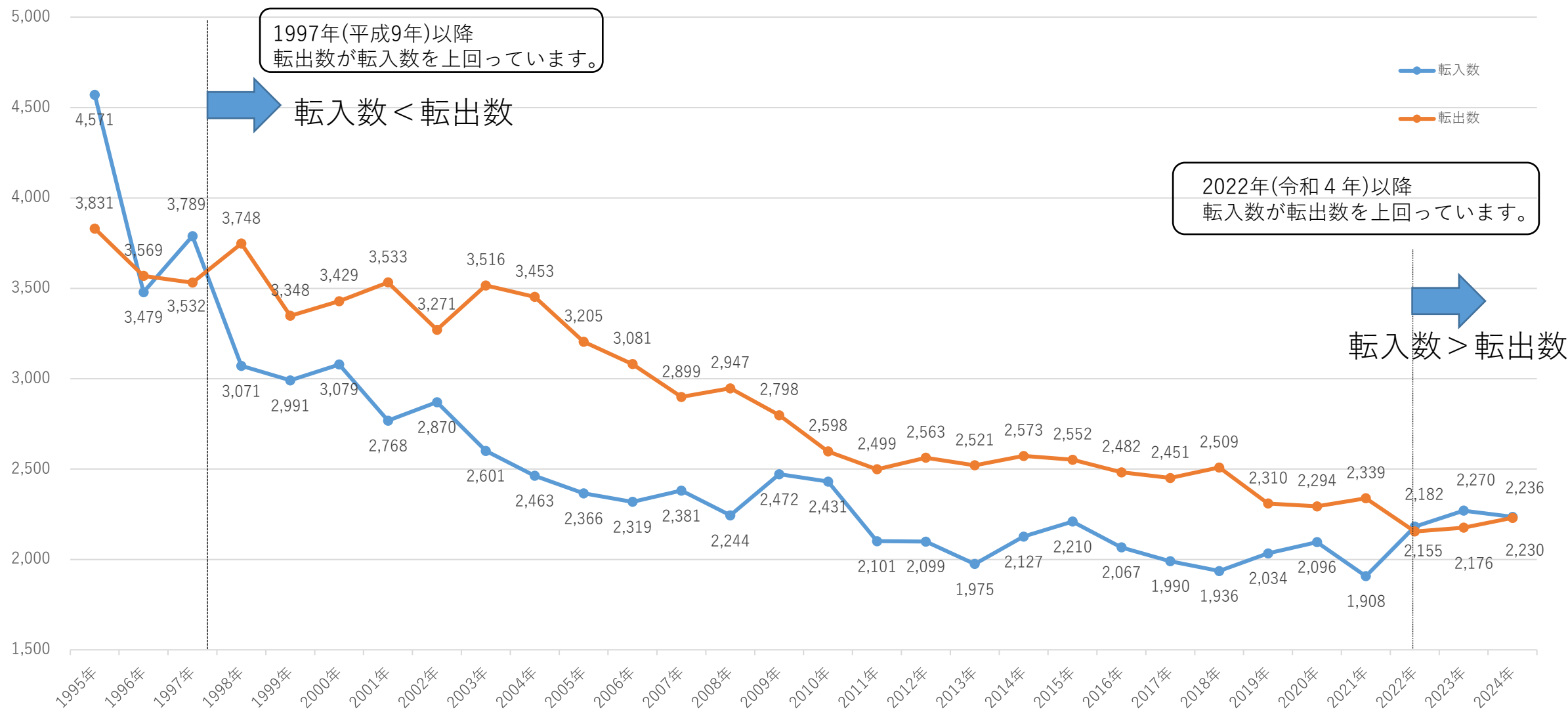
人口動態調査による母親の5歳階級別出生数を住民基本台帳（10月1日付）による15～49歳の5歳階級別の女性人口比で除した値の合計



転入数・転出数

【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

※ 各年1月1日時点



From-to分析（定住人口）

【出典】 地域経済分析システム（REASAS）2023年

転入者 内訳 〈上位5位〉

	転入元	転入者数	全体の割合
1	橿原市	229人	11.16%
2	大阪市	183人	8.92%
3	香芝市	153人	7.46%
4	葛城市	104人	5.07%
5	奈良市	75人	3.65%

転出者 内訳 〈上位5位〉

	転出先	転出者数	全体の割合
1	大阪市	240人	11.40%
2	橿原市	199人	9.45%
3	葛城市	150人	7.13%
4	香芝市	138人	6.56%
5	奈良市	79人	3.75%

転入超過数 内訳 〈上位5位〉

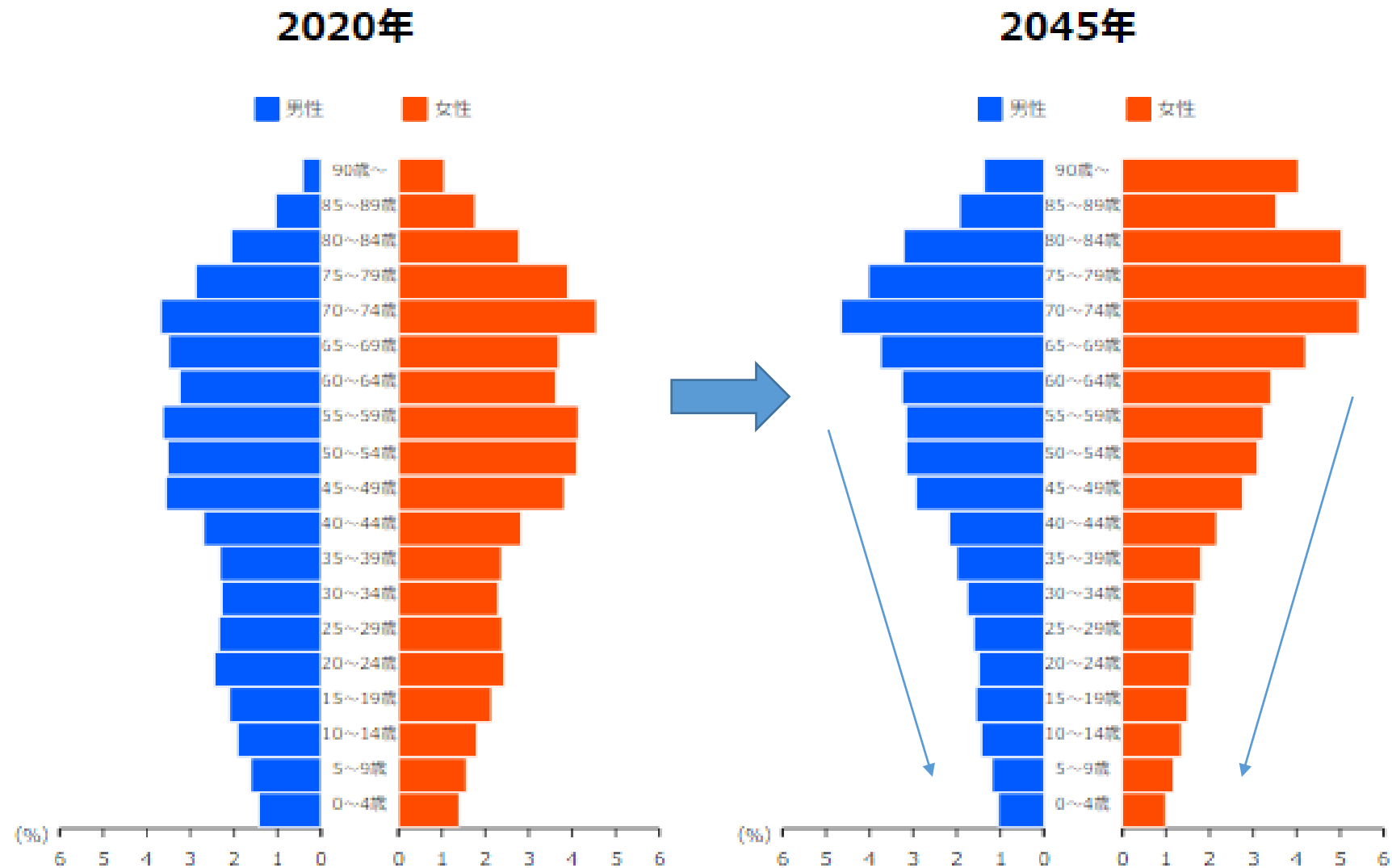
	転入元	転入者数-転出者数	全体の割合
1	橿原市	30人	18.29%
2	桜井市	29人	17.68%
3	御所市	26人	15.85%
4	香芝市	15人	9.15%
5	田原本町	12人	7.32%

転出超過数 内訳 〈上位5位〉

	転出先	転入者数-転出者数	全体の割合
1	大阪市	57人	26.27%
2	葛城市	46人	21.20%
3	広陵町	38人	17.51%
4	天理市	11人	5.07%
5	名古屋市	10人	4.61%

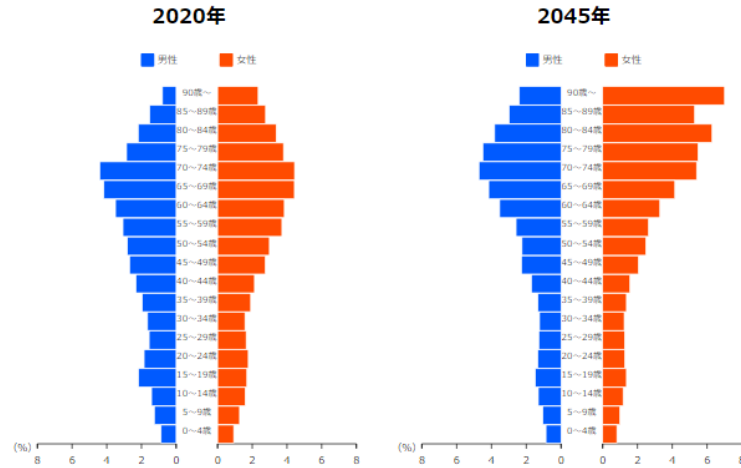
人口ピラミッド

【出典】 地域経済分析システム (REASAS)

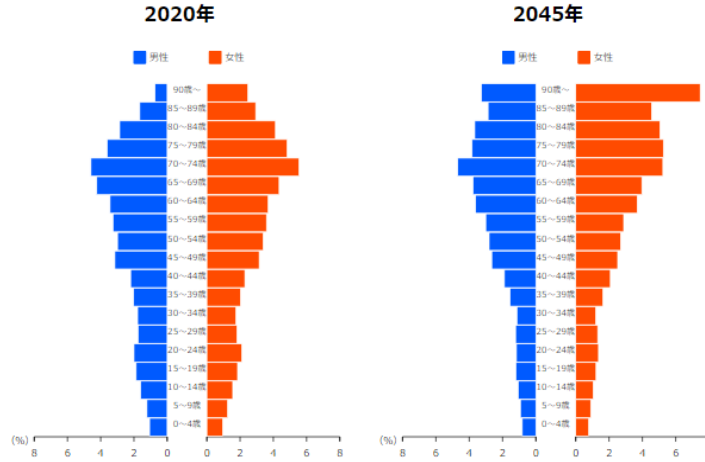


【参考】近隣市人口ピラミッド

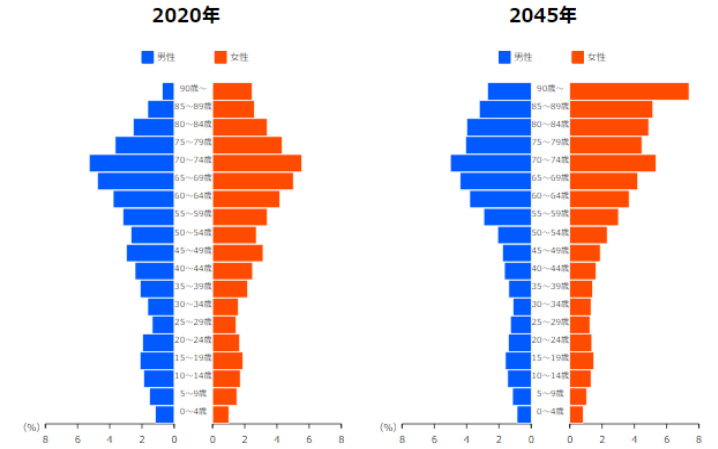
五條市



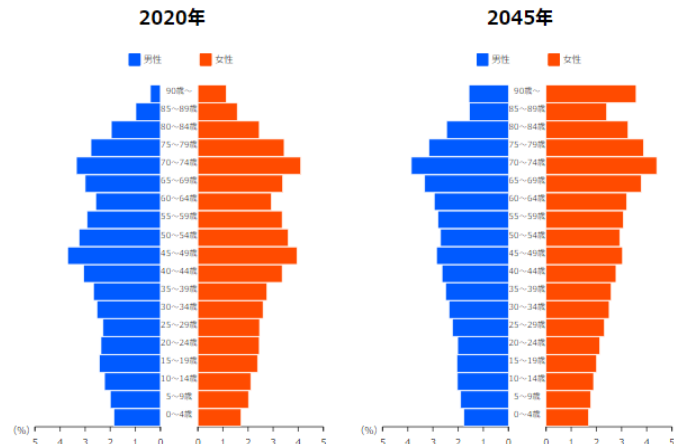
御所市



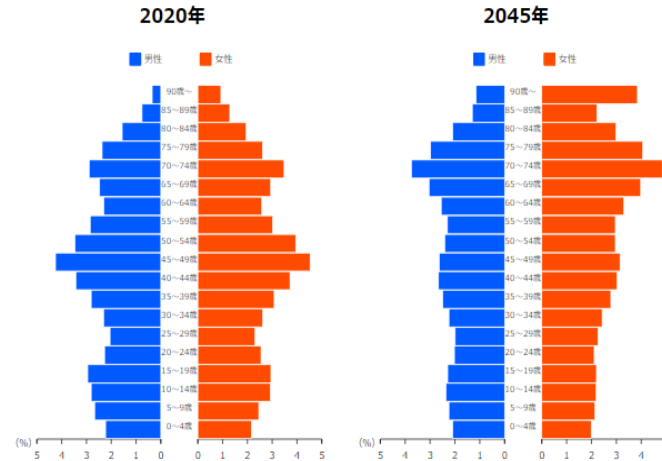
宇陀市



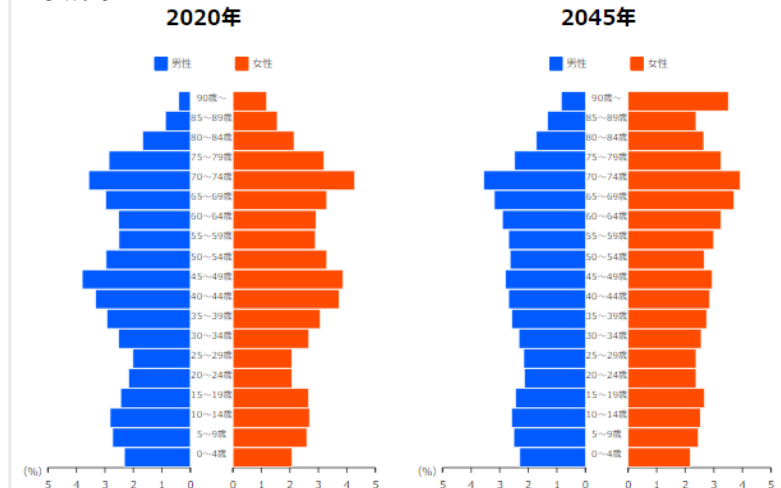
橿原市



香芝市



葛城市



○考察

- ・自然減少率が1995（平成7）年以降、過去最高であった2023（令和5）年と比較すると、緩和傾向にあるが、依然、自然減少率は高い。

→高齢化率が高い傾向は変わらないが、出生数は前年より増加に転じている

- ・3年連続で、社会動態増減数が増加している。
- ・合計特殊出生率は2021（令和3）年には1.00と過去最低値となっていたが、2022（令和4）年の1.07に引続き、2023（令和5）年は1.12とやや回復傾向にあり、コロナ前の数値までほぼ回復しつつある。

→大型マンションや、宅地開発があったエリアと人口増加エリアに相関があり、合計特殊出生率の上昇傾向から、前年度の転入の年齢層が子育て世代であったと推測される。